歯止めを

過や環境の変化とともに避難者が抱える悩みは多様化している。

このため県は、見守り体制の強化策として、避難者の身近な存在である地域のかかりつけ医らを対象に精神科の研修会を開く。うつやアルコール依存などの兆候を初期段階で発見したり、自殺の危険性が高い患者への対応法などの知識を共有してもらう考えだ。

避難者は、避難生活の長期化とともに、家族やコミュニティーの分断などからストレスや不安、焦りといった精神的なダメージの増加が心配されている。避難者の心理状態をこまめに把握し助言するなど心のケアを行う体制を、より広範に整えていく必要がある。

国の自殺対策はこれまで内閣府が担当してきたが、来年度から厚生労働省に移管されることになった。内閣官房と内閣府の業務を見直してスリム化を図る関連法が先の国会で成立したためだ。

厚労省は内閣府に比べ職員や予算、権限を持っているため、きめ細かな対応が期待される。しかし自殺対策は、各省庁が連携して行う必要があるため、内閣府に総合調整機能役を担わせてきた経緯がある。震災関連の自殺対策は特に横の連携が欠かせない。縦割り行政に陥ることなく総合的な自殺対策が講じられるよう求めたい。

2015.10.14

みんな！選挙さ行くべ!!

啓発ポスター完成

◀デザインが決定した県議選の啓発ポスター

県選管は13日までに、任期満了に伴い11月5日告示、15日投票で行われる県議選に向け、啓発ポスターのデザインを決定、発表した。明るい選挙推進の本県版キャラクターとして誕生した8種類の「ご当地めいすいくん」が、各地域の代表として「みんな！選挙さ行くべ!!」と呼び掛けている。

ポスターには、国際アート&デザイン専門学校（郡山市）の学生が考案した「ご当地めいすいくん」が登場し、「各地域の代表を選ぶ選挙＝県議選」というメッセージを強調したデザインとなった。

県選管はポスターを1万2千枚印刷し、11月5日ごろから県内の公共施設やスーパー、コンビニエンスストアなどに掲示する予定。

7選挙区で相互支援

4者協議会が確認書

11月5日告示、15日投票で行われる県議選で、民主党、社民党の両県連と連合福島、無所属県議による4者協議会は13日、福島市で代表者会議を開き、県議選の協力確認書を交わした。立候補が重複しない7選挙区について、相互に支援する。

相互支援を決めたのは、郡山市、会津若松市、二本松市、田村市・田村郡、伊達市・伊達郡、東白川郡、石川郡の各選挙区。社民党県連は郡山市と会津若松市の両選挙区で独自候補擁立を模索していたが、擁立を見送る。

県議選の選挙協力について協議する関係者

民主党県連の亀岡義尚幹事長、社民党県連の佐藤龍彦副幹事長、連合福島の今泉裕会長、無所属県議らでつくる県議会会派のふくしま未来ネットワークの高野光二会長が確認書に署名した。

来夏の参院選から選挙権年齢が18歳以上に引き下げられることから、若者の選挙への関心を高めようと同専門学校の学生がご当地めいすいくんのデザインや図案作成に協力した。

公認と推薦は18人

民主県連

民主党県連は12日、福島市で常任幹事会を開き、11月5日告示、15日投票の県議選の候補者擁立作業を終了し、公認、推薦した現職、元職、新人計18人で選挙に臨むことを報告した。

金子恵美代表代行（衆院比例東北）は会議後、取材陣に対し、擁立者数が目標の20人を下回ったことについて「選挙区ごとにさまざまな課題があり、なかなか擁立が進まなかった。全員が当選し足腰が強い民主党を目指す」と語った。亀岡義尚幹事長は「昨秋の知事選が与野党相乗りの〝オール福島〟で、政党間の対立が生じないことも影響した。全ての選挙区が最重点地区だ」と述べた。

会議ではほかに、復興推進に向けた施策や、県内原発の全10基廃炉などを柱とした県議選の県連マニフェスト案について議論した。17日以降公表する方針。

参画社会を実現

UAゼンセン県支部総会

全国繊維化学食品流通サービス一般労働組合同盟（UAゼンセン）県支部総会が12日、福島市で総会を開き、来年度の活動計画などを決めた。

加盟労組の代表ら120人が出席。鈴木三男支部長は「派遣労働者の環境改善は、男女共同参画社会を実現しなければならない」などとあいさつした＝写真。

議事では、組織の拡大・充実・強化、各種労働条件の改定への取り組みなどを盛り込んだ来年度の活動計画を決めるほか、来年の参院選に向けた団結を決議した。

本県3人大臣表彰

国民健康保険の功績者

渡部晴彦さん　鈴木重利さん　九里孝雄さん

県は13日、本年度の国民健康保険関係功績者厚生労働大臣表彰に、本県から県国民健康保険診療報酬審査委員の九里孝雄さん（70）＝いわき市、富岡町国民健康保険運営協議会委員の鈴木重利さん（66）＝富岡町、西会津町国民健康保険運営協議会委員の渡部晴彦さん（65）＝西会津町＝の3人が選ばれたと発表した。

同省は、国保事業の功績が顕著な国保関係の役職員らを表彰している。表彰は19日に東京で行われる。

伊藤、帆加利さん 奨励賞

朗読録音図書製作に尽力

県点字図書館は13日、朗読録音図書の製作などに尽力した人を顕彰する鉄道弘済会主催の「第45回朗読録音奉仕者感謝の集い」で、同館音訳奉仕員の伊藤美香さん（49）＝福島市＝と、帆加利奈穂子さん（58）＝同＝が奨励賞を受賞したと発表した。授与式は16日に福島市の同館で行われる。

伊藤さんと帆加利さんは共に同館の音訳奉仕員養成講座を修了後、活動を始めた。伊藤さんは同館スタジオで定期的に録音に取り組んでいる。

全国優勝の喜び報告

簿記の若松商、電卓で郡山商

杉教育長に優勝を報告する若松商と郡山商の生徒ら

全国簿記電卓競技大会の簿記高校の部団体で3年ぶり4度目の優勝を飾った若松商（会津若松市）と、電卓高校の部団体で3連覇した郡山商（郡山市）は13日、県庁に杉昭重教育長を訪ね、両部門を県勢が制する快挙を報告した。

若松商からは渡部美咲さん（会計ビジネス科3年）、橘美有さん（同）、小森麻由さん（同）、成田ひかりさん（同）、佐藤美空さん（同2年）が訪れた。渡部さんは「つらい練習を5人で乗り越えたからこそ優勝できた」と喜びを語った。

郡山商からは鈴木沙也加さん（会計科3年）、鈴木樹里さん（同）、榊亮太さん（流通経済科3年）、佐藤有美さん（会計科2年）、弟子丸遥花さん（同）が訪問。鈴木沙也加さんは「3年連続優勝の伝統を後輩たちに引き継ぎたい」と今後の抱負を述べた。

杉教育長は「これからも新たな目標に向かい、全国の強豪に負けぬよう頑張ってほしい」と活躍をたたえた。

大会は東京都で9月6日に開かれ、簿記の個人総合では渡部美咲さんが優勝、佐藤美空さんが2位、電卓の個人総合では鈴木樹里さんが制し、県勢が団体、個人ともに上位に名を連ねた。

目標達成は12県連

民主、党員・サポーター

民主党は13日、党員・サポーターの獲得目標を達成した12県連に奨励金各100万円を支給すると発表した。目標の9割を集めた3道県連には各50万円を支給する。6月末時点の党員・サポーターは昨年6月末とほぼ同数の計約23万3千人で、全国目標の約30万人には届かなかった。

目標を達成したのは青森、山形、福井、長野、静岡、三重、滋賀、奈良、岡山、香川、高知、佐賀の12県連。奨励金支給は、来年夏の参院選に向けた支持基盤強化が狙い。

11月17日に全国幹事長会議を党本部で開催することや、一部の党役員人事も発表した。

新たに決まった役員と「次の内閣」メンバーは次の通り。（敬称略、参は参院）

【役員】総務委員長　黄川田徹▽財務委員長　菊田真紀子▽広報委員長　寺田学▽企業団体対策委員長　羽田雄一郎（参）

【次の内閣】法相　鈴木貴子▽防衛相　大島敦

党の二階俊博総務会長で「一生懸命（拠出）納めて協力しながらわれわれの国の主張はにされない」と不満。公明党の山口那津は制度改正要求に賛。民主党の細野豪志長は会見で「拠出金なり停止することがどうかは考える必要が、削減は検討して」との見解を示した。党の今井雅人幹事長史的検証がはっきりていない中での登録っている。対抗措置るのは当然」とした。党の山下芳生書記局日本政府の考えが認なかったからといっ出金を削減するのは会の理解を得られな述べた。

「美しく輝く」

下郷町

式典であいさつする星町長

下郷町は12日、同町で制施行60周年記念式典を開き、出席者がさらなる町伸展を誓った。

約500人が出席。星町長が「飛躍の年と位置付け、美しく輝く交流の町創造していく」と式辞。